

トルコギキョウの品種と短日処理効果

佐藤孝夫・柴田浩

1. ねらい

秋田県におけるトルコギキョウ生産は、季咲き栽培での7～8月切りが主体であったが、最近無加温での9～10月切りの抑制型が導入されて面積、生産額ともに増加傾向にある。この時期の栽培は、育苗、生育期が高温で経過するためロゼット化や短茎開花などの問題が生じる。これらの問題に対して花芽分化を抑制し早期出蕾を抑えるために定植後の短日処理技術が確立しているが、品種によって短日処理の効果に違いがあることが指摘されている。そこで、本報では、県内で多く栽培されている20品種を用いて短日処理効果が生育、開花、切花品質に及ぼす影響について検討した結果を報告する。

2. 試験方法

- 1) 試験年次 2002年
- 2) 試験場所 秋田農試無加温ビニールハウス(100m²)
- 3) 供試品種
早生；‘ピッコロブルーピコティ’、‘ピッコロエロー’
中早生；‘エクローサグリーン’、‘エクローサエロー’
中生；‘キュートパープル’、‘あすかの萌黄’、‘あすかの漣’、‘あすかの新雪’、‘あすかの小桜’、‘アロハブルーライン’、‘ロココマリン’
中晩生；‘サマーエース’、‘マイティレディ’、‘秋試交1号’
晩生；‘つくしの羽衣’、‘つくしの雪’、‘つくしの春’、‘つくしの薫’、‘ダイヤモンド’、‘プラチナバイオレット’

4) 短日処理内容

遮光資材は、遮光率100%のホワイト&シルバーを使用し、遮光期間は17:00～翌日8:00までの15時間遮光、9時間日長とした。遮光方法は内張り遮光とし、遮光日数は定植後30日間とした。

5) 耕種概要

播種：4月15日、200穴セルトレー（播種用土：メトロミック360）。コーティング種子は1粒播種、裸

種子は2～3粒播種。

定植：6月18日、栽植距離：条間12cm、株間12cm、6条植え。

マルチ被覆：無孔反射マルチ

3. 結果及び考察

1) 出蕾の抑制効果

短日処理を行うことで供試した全ての品種で出蕾が抑制され、無処理区では8月上旬から出蕾を確認したのに対し、短日処理区では8月中旬からの出蕾だった（表1、表2）。

2) 花蕾数への影響

短日処理区と無処理区の花蕾数の差では2品種で差がなかったものの、その他の18品種では短日処理を行うことで花蕾数が増加した。増加した個数は、1個から7個までと花蕾数の差も品種によるところが大きかった（表3）。

3) 切花重への影響

短日処理によって、茎径や分枝数が多くなり供試した全ての品種で切花重が増加した（表3）。

4) 切花長への影響

短日処理でほとんどの品種で節数が増加した。切花長は無処理区との差が品種によって大きく異なり、短日処理によって切花長が長くなる品種、あまり差が明らかにならない品種、短くなる品種があった（表3）。

5) 切花長による品種分類

短日処理と無処理との切花長の差を±5cmを境界とすると、供試した20品種を3つのグループに分類することができた（図1）。短日処理が切花長に対し5cm以上伸長効果のある品種群をI群、ほとんど伸長効果の認められない品種群をII群、5cm以上抑制される品種群をIII群とした（表3）。

4. まとめ

無加温パイプハウスでの秋切り栽培の短日処理は、開花抑制と切花重増加効果が認められるが、切花長については品種によって効果に差が生じた。供試した20品種は短日処理効果に応じて伸長効果の高いI群7品種、効果の少ないII群8品種、伸長が抑制されるIII群5品種に分類した。

図表

表1 無処理区の品種別出蕾日比較

出 蕾 日	
8/1~10	8/11~8/20
ピッコロエロー	プラチナバイオレット
キュートパープル	つくしの羽衣
あすかの萌黄	マイティレディ
ダイヤモンド	
エクローサグリン	
あすかの新雪	あすかの小桜
	つくしの薫
つくしの春	
	サマーエース
	ロココマリン
	つくしの雪
秋試交1号	
エクローサエロー	
あすかの漣	
アロハブルーライン	
ピッコロブルーピコティ	

表2 短日処理区の品種別出蕾日比較

出 蕾 日			
8/1~10	8/11~20	8/21~8/30	8/31~
	あすかの新雪	プラチナバイオレット	
	ダイヤモンド		
		ロココマリン	
ピッコロブルーピコティ		つくしの春	
秋試交1号		つくしの薫	
ピッコロエロー		キュートパープル	
あすかの小桜		エクローサグリン	
あすかの漣		あすかの萌黄	
エクローサエロー		つくしの雪	サマーエース
	マイティレディ		つくしの羽衣
			アロハブルーライン

表3 無処理区及び短日処理区の出蕾、切花比較

品種名	出蕾抑制日数 ^z	切花長(cm)				有効花蕾数(個)				切花重(g)		分類 ^y		
		無処理		短日処		無処理		短日処		無処理			短日処	
		理A	理B	B-A	A	理B	B-A	理A	理B	理B	B-A			
ピッコロブルーピコティ	10	76	88.7	12.7	9.2	15	5.8	58.4	90.5	32.1	I			
ピッコロエロー	9	92.9	85.2	-7.7	7.3	10	2.7	79.3	86.1	6.8	III			
エクローサグリン	18	81	87	6	12	18	6	77.9	109.5	31.6	I			
エクローサイエロー	17	79.1	79.1	0	6	9.6	3.6	59.2	93.7	34.5	II			
アロハブルーライン	20	71.6	71	-0.6	8	10.2	2.2	60.9	62.8	1.9	II			
あすかの萌黄	22	86.9	86.5	-0.4	17	17	0	97.8	101.4	3.6	II			
あすかの漣	14	78.4	81.3	2.9	10	14.4	4.4	68.8	81	12.2	II			
キュートパープル	20	87.7	89	1.3	8.4	10.6	2.2	74.7	90.8	16.1	II			
ロココマリン	7	82.8	101	18.2	7	10.3	3.3	39.1	77.3	38.2	I			
あすかの新雪	8	84.4	91.5	7.1	10.8	15	4.2	73.3	98.3	25	I			
あすかの小桜	14	84.7	85	0.3	10.6	17.7	7.1	79.3	118.5	39.2	II			
マイティレディ	9	83.5	72.2	-11	11	15.2	4.2	80.6	89.9	9.3	III			
サマーエース	16	81.5	75	-6.5	8.8	13.2	4.4	68.2	82.5	14.3	III			
秋試交1号	14	76.1	87.7	11.6	8	9.4	1.4	57.3	80.8	23.5	I			
つくしの羽衣	18	84.4	78.6	-5.8	13	14.2	1.2	90.1	108.7	18.6	III			
つくしの雪	7	74.3	74	-0.3	9.3	15.5	6.2	81.8	87.1	5.3	II			
つくしの春	22	82.4	89.2	6.8	10.4	13	2.6	53.6	77.9	24.3	I			
プラチナバイオレット	17	98.4	90.2	-8.2	9.8	9.8	0	80.6	96.6	16	III			
つくしの薫	10	83.3	85.5	2.2	14.3	16.3	2	75.2	87.5	12.3	II			
ダイヤモンド	7	84.8	91	6.2	12.5	16.2	3.7	81.5	93.7	12.2	I			

^z : 短日処理区の出蕾日 - 無処理区の出蕾日

^y : I 伸長が5cm以上促進される

II ほとんど伸長効果ない

III 伸長が5cm以上抑制される

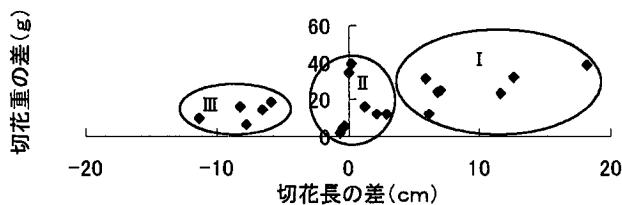


図1 切花長、切花重の短日処理の有無の差 (短日処理区 - 無処理区) による品種分布